

自主財源
依存財源

決算

「決算」とは、1年間に出入りしたお金を集計したものです。平成21年度一般会計決算状況をわかりやすくするために、町に入ってきたお金114億1,571万円を500万円に縮小して、みなさんの家庭における家計簿に置き換えてお知らせします。

◇町に入ってきたお金（歳入）

決 算 額		一般家庭の家計簿に例えると	
町税や使用料・手数料など	48億9,074万円	給料・パート収入・預金からの引き出しなど	214万2,100円
町債発行	11億1,230万円	ローン借入れ	48万7,200円
地方交付税・国・県支出金など	54億1,267万円	親からの援助	237万700円
合 計	114億1,571万円	合 計	500万円

給料や預金からの引き出しなどを自主財源といい、ローン借入れや親からの援助を依存財源といいます。自主財源の割合が高いほうがやりくりしやすいのです。町ではおよそ43%が自主財源、57%が依存財源になっています。車の購入や住宅の増改築（町では道路や学校の建設）など高額なものは計画的・効率的に借入れを行い返済していきます。

◇町が使ったお金（歳出：性質別）

決 算 額		一般家庭の家計簿に例えると	
義務的経費	人件費	16億7,751万円	73万4,800円
	扶助費	9億617万円	39万7,000円
	公債費	9億600万円	39万6,900円
物件費	11億5,551万円	電気代・水道代など	50万6,200円
投資的経費・維持補修費	12億8,232万円	家の増改築や修理・車の購入など	56万1,800円
繰出金・補助費・出資金・貸付金など	33億7,502万円	子どもへの仕送り・自治会活動費など	147万8,400円
積立金	14億357万円	貯蓄	61万4,900円
合 計	107億610万円	合 計	469万円

食費・医療費・学費など生活費の割合が高いと急にお金が必要になったときに困ってしまいます。収入の増加が見込めない中、無駄をばぶいて町民サービスや事業の優先順位を考え、限られたお金を計画的にやりくりしていかなければなりません。

一 般 会 計

一般会計は、基本的な行政サービスに使われ、歳入歳出の差し引き額は7億961万円でした。平成20年度と比べてみると、歳入で3億1,892万円、歳出で1億7,445万円、差し引き額では1億4,447万円とそれぞれ増額となっています。

これは、国からの地域活性化・経済危機対策臨時交付金をはじめとする各交付金事業や定額給付金事業等によるものです。

また、歳入の主なもの、地方交付税が29億4,402万円、町税が25億2,161万円、国からの補助金が13億4,995万円となっています。

◇町が使ったお金（歳出：目的別）

区 分	決 算 額	比率(%)
議 会 費	8,920万円	0.8
総 務 費	26億6,459万円	24.9
民 生 費	20億8,702万円	19.5
衛 生 費	14億5,082万円	13.6
農林水産業費	4億6,525万円	4.3
商 工 費	6,004万円	0.5
土 木 費	6億6,976万円	6.3
消 防 費	4億7,257万円	4.4
教 育 費	18億4,085万円	17.2
公 債 費	9億600万円	8.5
合 計	107億610万円	100.0